



市内各所で秋祭り

各地域で、秋祭りが行われました。10月14日に行われた大賀茂山神社、走湯神社の例祭では、お道具、太鼓、子供御輿の巡行のほか、山神社に伝わる神楽が若衆により演じられました。(写真は「弊の舞い」)



10/16 走って・歩いて楽しい道づくりの活動

「お吉桜を保存し普及する会」(高橋忍代表、会員32名)とアダプト・ロードの同意書が交わされました。高橋代表は、今後国道414号の150mの担当区間に、お吉桜の苗木の植栽をし、名所となるよう頑張っていきたいと抱負を語っていました。



男女共同参画で静岡県知事褒章

男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会代表の伊澤英子さん(須原)が、静岡県男女共同参画社会づくり活動に関する知事褒章を受章しました。本市での男女共同参画の推進に関する取組みが評価されたものです。



▲下水道書道コンクールで市長賞を受ける佐藤真莉さん(下田小)



10/8 みんなでささえる、笑顔のまち

市民文化会館などを会場に、第27回下田市ふれあい広場が開催されました。今年は消費生活展も同時に開催され、バザーや福祉・健康・防災・生活をテーマにした展示・体験コーナーに多くの人で賑わいました。



10/17 みんな友達 なかよくしよう

人権擁護委員5名が朝日、稲生沢小学校を訪問し、1年生の児童に人権冊子「種をまこう」のよみかせを行いました。子どもたちは、人権をテーマにした話しに真剣に耳を傾けてくれました。

下田市内の指定文化財その28

下田御番所跡

所在地 下田市三丁目
指定日 昭和51年5月27日
静かな入り江である大浦湾には、江戸時代、海の関所である御番所(船改め番所)が置かれ、下田湊に「出船入船三千艘」といわれるほどの大繁栄をもたらしました。



大浦の下田御番所跡

遠見番所から御番所へ
関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は、征夷大將軍となり江戸に幕府を開きました。まだ戦国時代の緊張を色濃く残していた元和元年(1615)、下田は江戸と大坂を結ぶ航路の重要な中継地だったため、

二代目將軍秀忠は関ヶ原の合戦で功績のあった今村伝四郎正長に下田の警備を命じました。翌年には伝四郎の父、今村彦兵衛重長を初代下田奉行に任じ、下田沖を通過する船舶を監視するための遠見番所が須崎に設置されました。やがて元和9年(1623)大浦へと移され、寛永13年(1636)に御番所として、通過する全ての船舶を検問するという重要な役割が果たされました。

江戸を結ぶ航路の廻船も下田で検問を受けたため、下田の町は寄港した船舶の乗組員で大いに賑わい、伊豆の下田に長居はおよし、縞の財布が軽くなる」と下田節に歌われたほどでした。



御番所のあった大浦

御番所の役割
「入鉄砲・出女」を取り締まった箱根の関所と同じく、不審な人物や武器が船によって江戸への出入りすることを防止する役目を担いました。御番所は大浦湾の奥まった海岸沿いに置かれ、周辺には高札場や御船蔵が建っていました。御番所には与力、同心の補助員として「廻船問屋」と呼ばれた検問係が常駐し、検問の終わった廻船を船宿のある下田湊へ水先案内する役目も兼ねていました。江戸と大坂航路だけでなく、東北と

下田に富と繁栄をもたらした御番所でしたが、幕府の政治安定とともにその役目を終え、享保6年(1721)に、より江戸に近い浦賀(横須賀市)に移され、下田は静かな風待ち港となりました。次に下田が歴史上の脚光を浴びるのは、幕末のペリー艦隊来航まで待たねばなりません。アクセス
伊豆急下田駅より徒歩30分
問合せ先
教育委員会生涯学習課
☎5055

樹の葉 vol.69

平成17年4月に施行された《合併新法》に基づき、静岡県市町村合併推進構想が策定されたのが昨年の3月、当南伊豆地区に関しては再び1市5町(下田・東伊豆・河津・南伊豆・松崎・西伊豆)の枠組みが示されました。平成12年からの《旧合併特例法》の下で、合併に取り組んできた県内の市町村は74から42に再編されましたが、1市6町村でスタートした我々の合併議論は、東伊豆町が早々と抜け賀茂村と西伊豆町のみが合併を成し遂げる事が出来ました。合併に対して国や県は大きな支援をしてくれる仕組みになっています。今回の《合併新法》は平成22年3月までの期限立法ですが、前回の合併と比べて財政支援だけの面でも大変少なくなっています。大きなところで合併特例債がありません。また、地方交付税も算定替の特例10年が5年になり、その他の補助金や交付金も廃止されたり減少しています。もし、今回6市町で合併できたとしてもその差は数十億から数百億ぐらいになるかもしれません。下田市は前回の合併議論より、当局と議会が両輪となってこの合併を推進

してきましたが、結果はご承知の通り残念な結果となりました。何事においても与えられたチャンスを確認に捉えるリーダーの先見性と決断が必要なのは言うまでもありません。国の人口が予測を上回るスピードで減少する中で、少子・高齢化はますます進行し、下田市でも平成30年代には人口が2万人を割り、42年には老年人口が50%に迫ると予測されています。今後、住民ニーズの多様化により、市町が担う行政サービスはますます増大してくるでしょう。
合併というのは長期的ビジョンに立って考えなければなりません。将来に向かって、分権型社会に対応できる「しっかりと財政基盤、自立できる自治体」をつくる必要があります。さらに静岡市・浜松市に続き、伊豆を巻き込んだ東部地区の政令指定都市を目指す時もあるかもしれません。間にもやってくるかもしれません。自分のまちだけはなんて小さな考えでなく、私を含め6人の首長と各市町議員は、賀茂地域全体の将来をしっかり見据えた議論をする義務と責任があります。



下田市長 石井直樹

上旬~中旬	市内各学校・幼稚園・保育所運動会	21日	グラウンドゴルフ競技大会
6日	ごみひろいしましょ(白浜大浜海岸)	22日	賀茂地区社会福祉大会
8日	第27回下田市ふれあい広場	25・26日	保育所入所説明会
11日	健康づくり推進委員協議会	28~30日	白浜神社例大祭
20日	大賀茂 柿みかん狩りオープン	29・30日	幼稚園入園説明会